

交野々原物語 Q

発行日…令和二年四月二十九日  
発行元…天の川・交野々原日本遺産プロジェクト  
問い合わせ…〇七二―三九五―三四八五  
[katanooharadai@gmail.com](mailto:katanooharadai@gmail.com)

# 降星伝説 八丁三所

平安時代、弘法大師・空海が私市の獅子窟寺で修行をしていたところ、天から北斗七星が降りてきたという言い伝えがある場所です。そこが星田にある光林寺・星の森・



妙見山の3つの場所であり、それぞれの間の距離が八丁（約880m）であるため八丁三所と名付けられました。なぜ北斗七星が3つに分かれて落ちたのか？三種の神器などがあるように、昔から「3」という数字には何か神秘がある気がします。どこも緑が多く、自然のパワーを感じられる場所なので、八丁三所の神秘を感じながらウォーキングなんてどうでしょうか？

★星の森 交野市星田7丁目。JR星田駅から徒歩3分。★星田妙見宮 … 交野市星田9丁目60-1。JR星田駅から徒歩20分。★光林寺 … 交野市星田1丁目26。JR星田駅から徒歩20分。

# 磐船神社

天照大御神（アマテラスオオミカミ）の子孫である天孫・邇邇藝命（ニギノミコト）が、天照大御神の神勅を受けて国を治めるために、高天原から高千穂峰（現在の宮崎県）へと天降りしたことを天孫降臨といいます。そして、実はこの交野ヶ原にも天孫降臨の地があることを皆様はご存知でしょうか？それは、交野市にある岩窟巡りで有名な磐船神社です。

ここは、「天の磐船」と呼ばれる高さ・長さとともに約12メートルもある舟形巨岩を御神体としており、邇邇藝命と同じく、天孫である饒速日尊（ニギハヤヒノミコト）



が天の磐船に乗って降臨されたとの伝承があります。風情溢れる天孫降臨の地で、天の磐船の神秘とスリル満点な人気の岩窟巡りをぜひ楽しんでみてはいかがでしょうか。

交野市私市9丁目19-1。京阪私市駅から京阪バスまたは奈良交通バスに乗換「磐船神社前」。

# 交野ヶ原東部

## 長尾の菅原神社

JR長尾駅の裏にある、菅原神社。ここのご祭神の菅原道真は長岡天神からいらっしやいました。江戸時代に入り、戦乱で荒野と化した長尾周辺をあたえられた久貝正徳



が、村おこしを始め、最初13戸でしたが、開墾地が豊かな土壌で増収があったため、息子の正世の代には、33戸まで増えました。その際、町の神様を迎えるにあたって、久貝氏がかつて領地としていた長岡の長岡天神より、菅原道真を招いたことが、菅原神社の由来です。学問の神様であり、町を一つにまとめる町おこしの神様として、菅原神社は今日も大事にされています。

枚方市楠葉中之芝2丁目。JR長尾駅から直線約290メートル。

## 氷室の雪鬼

枚方市で最東部に位置する氷室。地名からしていかにも寒そうな地域に伝わる伝説「氷室の雪鬼」を紹介します。

時は平安時代、伊勢物語の主人公、在原業平（以下業平）の物語です。業平が氷室の地で、冬の寒い日、雪に襲われ遭難してしまいました。絶世の美女に助けられます。互いに惹かれ合い、美女



は「交野の君」として都に強引に招き入れられ、皆がその美しさに感心しました。しかし「交野の君」は次第に痩せ細り、ある夜、布団を雪溶け水のように濡らし姿を消してしまいました。悲しむ業平の夢で「本当は交野ヶ原に何百年も住む雪の精で、寒い野山でないと生きていけず、春になったら都では溶けてしまい、交野ヶ原に戻ってしまった」と真実を語ります。それから業平は毎年冬になる「交野の君」に会いに交野ヶ原に狩に行ったのでした。

実はこの伝説が、氷室という地名の由来になっているそうです。

枚方市氷室台。JR長尾駅から京阪バス75・89系統。

# 交野ヶ原南部

## 源氏の滝 夜泣き石

源氏の滝は交野市倉治にある18mの滝で古くは修験の滝として人々に知られていました。この滝を舞台とした「夜泣き石」という悲しい物語が残っています。



その昔、山賊が源氏姫

と梅千代という少年を攫いました。梅千代は道中で絶命し、悲観に暮れた源氏姫は山賊の女頭領の胸を刺します。その女頭領は、源氏姫と梅千代の生き別れた母親であることを死の間際に告げ、源氏姫は絶望して源氏の滝壺に身を投げ母親と弟の後を追いました。

それ以来、滝近くにある石が夜になるとさめざめとすすり泣くそうです。心霊スポットと紹介されることもありますが、清涼な滝音と木々に囲まれた素敵な場所ですよ。

交野市東大字倉治。JR津田駅から徒歩28分。

# 日本鉄文化 森遺跡

森遺跡はJR河内磐船駅周辺に広がる遺跡です。古墳時代中期以降に鍛冶炉が多数建造され、全国的にも珍しい大規模な鍛冶工房だったようです。

それまで朝鮮半島から招いた鍛冶技術者（韓鍛冶）に頼っていた製鉄技術ですが、森遺跡の操業には古墳時代前期に確立した日本独自の鍛冶技術者（倭鍛冶）も配置されていたとみられ、飛鳥時代に操業を停止する約150年で日本の鉄文化に大きな影響を与えた場所でした。

ちなみに、「この「磐船」の地に残る天孫降臨伝説



交野市森南。JR河内磐船駅から徒歩すぐ。

は別話にもあるとおりですが、その随行者の中に「倭鍛冶の祖」とされる「天津真満（あまつまうら）」の名があることははたして偶然の一致なのでしょうか？

# 交野ヶ原中部

## 田口の山田神社

枚方市には山之上と田口に「山田神社」があります。本書で紹介するのは田口の山田神社です。

毎年十二月になると、

神社氏子総代で勸請縄（かんじょうなわ）と呼ばれる巨大注連縄が作られ、正月に境内に飾られます。この注連縄は、氏地を十組に分け、毎年輪番で作成されます。重さは約百貫あり、かつては村の若者たちで神輿のように担いで伊勢音頭を唄いながら町内を練り歩きました。集落の魔除けや豊作を祝う勸請縄は現在も作られており、昔より



は大分と小ぶりになったそうですが、枚方市内に残る珍しい風習なので、一見の価値あります。

枚方市田口1丁目。京阪バス「田ノ口中央」下車徒歩4分。

# 交野ヶ原西部

## 禁野車塚古墳

禁野車塚古墳は全長110mの国指定史跡で、枚方市内屈指の大型前方後円墳です。

奈良県の箸墓古墳と特徴が一致する相似墳であり、出土物からもヤマト王権との繋がりが垣間見



える古墳ですが、「ノツ千（ツチノコ）」が住んでいて祟りがある」という伝説があり、筆者が小学生の頃は、この場所に来て、生い茂る草をかき分けてノツ千を探したものでした。

余談ですがこの古墳、東西の中心線を東方向に伸ばしていくと、ちょうど京田辺市の甘南備山に行き当たります。甘南備山は古くから神が棲むと云う神の山。山神と言えは思い浮かぶは「オオヤマツミ」ですが、その妻である草の神「カヤノヒメ」の別名は確か…。

枚方市宮之阪。京阪電車宮之阪駅から徒歩4分。

## 千利休のにじり口

茶室には「にじり口（にじりくち）」と呼ばれる狭い入り口が設けられています。この「にじり口」は、茶聖と称せられる千利休の考案とされており、現存する最も古い茶会記「松屋会記」では、「淀川の船



付きにくぐりにて出を、詫びて面白とて扇（利休）仕始めるなり」とあり、船の低い屋根をくぐるのが詫びるよつたと面白がったことから着想を得たとの記述があります。淀川の何気ない情景から、侘び寂びの世界と俗世の境界を見出だした感性には感服するばかりです。

利休の作として伝えられる最古の茶室「待庵」（国宝）にもこの「にじり口」が設けられています。この壁下地には淀川の蘆が使用されているそうです。

枚方市堤町地先（淀川河川敷・枚方船着き場）。京阪枚方公園駅から徒歩10分。

## 鈴見の松と別子山（&トロッコ列車）

「鈴見の松」は枚方市に伝わる「鶴の恩返し」の昔話。別子山（へっしやま）はその舞台となった場所です。

西暦600の年頃、鈴見という孝行息子が鶴を助けたところ、天女となって恩返しにやってきました



た。二人は子を授かりましたが、天女は錠により天上界に帰らなければならず、山の頂上で子に別れを告げるのでした。以来、この山は別子山と呼ばれ、そこにあつた松の木は「鈴見の松」として語り継がれています。

しかし、別子山は昭和15年に淀川堤防増築の折にトロッコで土砂を削りだされ、今はその姿を見ることはできません。

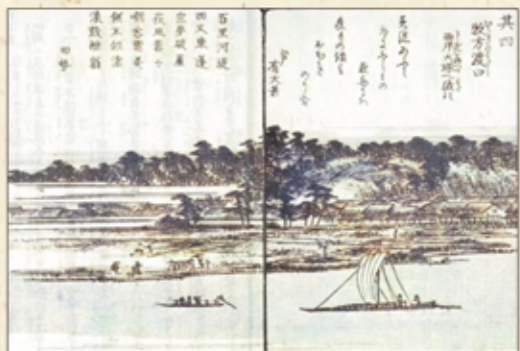
この元・別子山の東端にあたる岡東公園には、何代目かになる鈴見の松が、看板と共に今もひっそりと植えられています。

枚方市岡東町16（岡東公園）。京阪枚方市駅から徒歩2分。

## 枚方街道と枚方・大塚の渡し

「枚方街道」は枚方宿と芥川宿（高槻市）を結ぶ約7.8kmの旧街道です。

枚方宿は高槻城主永井藩の預かり地（幕府からの委託管理地）であつたことから、江戸時代には



頻繁に利用されていたようです。現在には、三矢町の道標に「左 枚方街道 渡場」と名を残すのみですが、高槻市側は街道沿いに案内看板を複数設置するなど保存が進められています。

この街道が珍しいのは渡し舟も含まれていたこと。渡船も立派な「道」だったので。当時の人にとって渡し舟がいかに身近な交通手段であつたかがわかりますね。

余談ですが、資料をよく見ると「枚方渡口」になつていきます。枚方は昔からよく間違えられていたんですね。

枚方市三矢町3-12。京阪枚方公園駅から徒歩4分。

## 夜歩き地蔵

夜歩くお地蔵さん。江戸時代の頃、枚方宿には多くの旅館がありました。そこでは飯盛女（めしもりおんな）たちが、貧しい家族を支え、借金を返すために働いていました。

その一人、17歳の「おえい」は渚村の百姓の息子「新七」と互いに想いを寄せるようになります。しかし、「おえい」が旅



籠屋を辞めるには多額のお金が必要で、若い二人は思いつめ、心中を図りますが、「新七」だけが生き残り、心中の罪を受け斬首されました。その翌日、枚方宿の飯盛女たちは泣きながら、お地蔵さんの前で二人を弔いました。

それ以来、お地蔵さんは夜な夜な出かけ、宿場町の人々の悩みを聞き、折っておられるとのこと。それが、霊鏡寺（だいきやうじ）にいらつしゃいます「夜歩き地蔵」です。

枚方市枚方元町6。京阪枚方公園駅から徒歩2分。

# 百濟王氏の足跡

8世紀前半、時の三カド、聖武天皇は頭を抱えていました。大和の国で猛威を振るう流行病を鎮め、民の不安を除き、国家を安定させるために、大仏建立の詔を発しました。

しかし、民の心を癒める象徴として描いた、黄金の大仏を造るためには、黄金が必要でした。その時、陸奥から「百濟王敬福が陸奥の瀧谷で金を見つけた」という知らせが。これぞまさに天啓。敬福が一族にはそれ相応の褒美を与えねばならない。そして、百濟寺が建立されます。

## 百濟寺跡

陸奥の瀧谷（現在の宮城県瀧谷町）にて、大仏建立に必要な金を初めて日本国内で見つけた百濟王敬福。聖武天皇はこれを大いに喜び、敬福の7階級の昇進を認めました。



その後、河内守となった百濟王敬福は一族の本拠地を難波から、生駒山・交野ヶ原・淀川を見渡し、中宮に移して百濟寺と建立しました。



- 六六〇 百濟滅亡
- 六六三 白村江の戦い
- 七四三 聖武天皇が「大仏造営の詔」を発布
- 七四三 百濟王敬福が陸奥守に就任
- 七四九 陸奥瀧谷で敬福が日本初の産金報告
- 七五〇 敬福が「河内守」に就任
- 七六六 敬福死去
- 七八三 百濟寺が『続日本紀』に初出

## 大塚小神社

地名や店名など、口から口へ伝わり、紙から紙へと書き写されていくと音や表記が変わっていくものも多々あったでしょう。

枚方の向い、大塚も元々は「王塚」が由来だそうです。意味は「王様の墓」から来ています。その王が、河内守を務めた百濟王敬福と伝えられています。場所としては、今の天塚神社の



あたりになります。淀川を挟む伊加賀には、百濟王明信を祀る官女塚、百濟王貴命を祀ると伝わる姫塚があります。母方に百濟王氏の血筋を持つ桓武天皇が奈良を出て、淀川から長岡京・平安京へと移つていったのも、淀川に百濟王の影が響いたが故かもしれません。

## 大仏坂・大仏町

交野市倉治には、「大仏坂」という坂があります。2014年3月号の「広報かたの」の記事には、「奈良の東大寺の大仏を造る工人がこの地を通ったため」という説が掲載されています。近くには大仏町という地名も交野ヶ原から大仏造営の技術者を送り出したのかとロマンを感じさせてくれます。



## 官女塚

百濟王氏が最も隆盛を極めたのが、敬福の頃である。百濟王明信の孫である藤原継縄の妻でありながら、桓武天皇に寵愛されました。桓武天皇は平城京から遷都にあたり、自ら父方、天智系の血筋と母方、百濟系の血筋を引いていたことを強調して、新王朝設立にあたり、冬至の日には郊外に冬祭りを執り行い、百濟寺跡と明信が祀られる場所を果たした。桓武天皇の平安京への遷都と、桓武天皇の地位を失っていきま

私欲を捨てて、新時代の裏方として身を粉にした明信の墓である「官女塚」は枚方バスターミナルの近くにあったと伝えられますが、今は跡も見当たりません。

## 姫塚古墳

官女塚に眠る明信の姫にあたる、百濟王貴命の墓と伝えられています。明信と同じく、天皇に仕え、百濟王の繁栄期を彩りました。彼女の墓は官女塚と京阪電車の線路を挟んだ反対側、京阪園芸敷地の内の最も奥に位置しています。発掘調査では、埴輪や須恵器が出土。この塚の部分だけが国土地であり、京阪園芸では、社員の方が月初めにお供えをします。お祀りをされています。



## 伐らずの柳

枚方市役所から枚方消防署へ続く道路に、せり出すように立つヤナギの老木があります。過去に数度伐採を試みたものはいずれも死傷者が出て以来、祟りがあるとして伐られていないのだとか。詳しい資料などはないものの、市道路管理課に



枚方市大垣内町1丁目4。京阪枚方市駅から徒歩3分。

よると「あの木を下手に伐つてはいけない」という事は課内で周知されているとの事。また、公園管理課が剪定や保護処置をされていますが、「作業に当たってはお祓いを必ず行う」との事です。所在地は船橋街道の辻にあたります。辻にはさまざま人間模様を描かれるものです。里の目印であったこの木には、ここに残らねばならない遠い日の約束があるのかもしれないですね。

## 出口村に伝わる蓮如「白骨御文」

光善寺といえは蓮如上人の腰掛け石があります。その昔、蓮如上人が越前吉崎から来られた時に最初に身を寄せられた質屋があった場所で、この質屋の主人は「御厨破入道光善」と名乗ったことから、光善寺の由来になりました。この地でした



ためられた(現在も浄土真宗の葬儀で唱えられている)「白骨御文」の悲しい物語をご紹介します。昔、出口村に木綿を商う商人がいました。商人の1人娘は、近郷近在に並ぶ者のない美人で、掌中の珠と可愛がられていました。この娘が18歳の時に交野の旧家の息子と婚約が決まり、挙式を明日迎えるという日に突然病で亡くなってしまいました。両親は悲しみ嘆き打ちひしがれていました。それを見られた蓮如上人はすぐ一編の文章をしたため、商人に与え慰め教え導いたといわれます。この文章が、かの有名な「白骨御文」です。

枚方市出口5丁目2。京阪光善寺駅から徒歩10分。

## 田宮姫の祠

「宮」とつく地名にはストリーがあり。百濟王神社のある枚方の「中宮」もそうです。今回は、枚方市駅から徒歩10分の場所にある「田宮」にまつわるお話です。現在はマンションになっている場所に、かつて向山という山がありました。青々と茂った山の頂上に



枚方市田宮本町。京阪バス「田宮」から徒歩3分。

は白砂が敷かれた場所があり、その中央にある祠に田宮姫が祀られています。1952年に淀川の堤防工事に向山の土が使われることになり、ダイナマイトを使った掘削作業が始まり、祠は山の中腹に移されました。その後、マンション建設の為、枚二小学校の裏門の近くに移されました。月日は流れ、大阪北部地震や台風により、田宮姫の祠は台座から落ちてしまいました。その後、御神体は管理者様のご自宅にお祀りされているとのこと。田宮姫を祀られた経緯などの詳細はもう知る人がいなくなってしまう謎のままです。

## 父娘別れの蹉跎神社

京阪本線光善寺駅から南東へ約500メートル、徒歩7分の住宅街の中に、神聖な空気の漂う神社があります。ここには、父と娘の悲しい物語があるのです。



学問の神様で有名な菅

原道真が太宰府に左遷される途中、山の上で休憩し都の方を眺めて名残を惜しんだ際、娘の刈谷姫が父に会いたいと追いかけたのですが、あと少しの所で間に合わず、悲しみに足摺り(蹉跎)して嘆いたといわれます。以来、この山を「蹉跎山」と呼ぶようになりました。その話を太宰府で聞いた道真は娘に自身の木像を作り送りました。天曆5年(951年)蹉跎山に社殿を作り、その木像を祀ったのが神社の縁起です。二度と会うことができなかつた父娘の悲しみや、互いを思う心の強さが伝わる場所です。

枚方市南中振1-7-18。京阪香里園駅から徒歩7分。

# 交野ヶ原北部

## 楠葉台場跡

「なつくさや つわもの  
どもがゆめのおと」  
これは松尾芭蕉が藤原  
家三代の一時の栄華を思  
い詠んだ歌ですが、ここ  
枚方にもつわもの達の香  
りを感じる場所がありま  
す。



ここは幕末期に、江戸幕府側と新政府側の攻防が繰り広げられた鳥羽伏見の戦いの決着地点です。戦闘開始前に新政府側に錦の御旗が立てられたため、形勢逆転、新撰組と会津藩率いる幕府軍は追われる立場となりました。この「楠葉台場」は、その後旧幕府軍が東へと撤退を始める天下分け目の大舞台となりました。京阪電車からも一望できる位置にある歴史的な旧跡。皆さんも一度、つわもの達の香りを感じてみてはいかがでしょうか。

枚方市楠葉中之芝2丁目。京阪橋本駅から南へ600メートル。

## アテルイ・モレの首塚

アテルイ(阿弭流為)は東北に暮らす蝦夷(エミシ)の長。朝廷からの支配を拒み、蝦夷の誇りを守るために戦いました。

しかし、永い戦乱に破壊される故郷、荒んでいく人々の心に胸をいたため、闘いをやめ朝廷に降伏しました。坂上田村麻呂に連れられ、京までやってきたアテルイは朝廷から「卑しきモノ」と断ぜられ、田村麻呂の懇願も空しく、盟友モレと共に首を刎ねられ、処刑されてしまいました。

そのアテルイとモレの首が埋められたという首塚が、桜で有名な牧野公園にあります。なぜここに？本当に



首が埋まっているの？真偽の程はわかっていませんが、牧野には胴塚もあるといわれています。

ちなみにモレ(母礼)はアテルイのお母さんでも恋人でもなく、男性でした。

枚方市牧野阪2丁目。京阪牧野駅から東へ徒歩約5分。

# 交野ヶ原地図

もくじ(数字はページ数)

- 2 楠葉台場/アテルイ・モレの首塚
- 3 長尾菅原神社/氷室の雪鬼
- 4 円通寺/田口姫/石川五右衛門
- 5 山田神社/禁野車塚古墳
- 6 伐らずの柳/田宮姫
- 7 鈴見の松/臺鏡寺の夜歩き地蔵
- 8-9 百濟王氏の足跡
- 10 蓮如腰掛け石/蹉跎神社
- 11 千利休にじり口/枚方街道
- 12 源氏の滝/森遺跡
- 13 交野山/機物神社/獅子窟寺
- 14 八丁三所/磐船神社



※今号では今までの『交野ヶ原物語』とは違い、歴史書には載らないような、交野ヶ原にまつわる昔話や地元の言い伝えを紹介しました。この冊子を持ってぜひ交野ヶ原を巡ってみてください。